

作成日：2016 年 12 月 17 日

改定日：2026 年 05 月 19 日

安全データシート (SDS)

1. 化学品及び会社情報

化学品等の名称	1N 塩酸
品番	85941、85942
供給者の会社名／部署	武藤化学株式会社／学術部
住所	東京都文京区本郷 2-10-7
電話番号	03-3814-5511
ファックス番号	03-3815-4832
電子メールアドレス	mutopop@mutokagaku.com
緊急連絡電話番号	03-3814-5511
推奨用途及び使用上の制限	検査・研究用（人体には使用しない事）

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

物理化学的危険性

金属腐食性化学品 : 区分 1

健康に対する有害性

皮膚腐食性/刺激性 : 区分 1

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 : 区分 1

特定標的臓器毒性(単回ばく露) : 区分 2(呼吸器系)

特定標的臓器毒性(反復ばく露) : 区分 2(歯、呼吸器系)

環境に対する有害性

水生環境有害性 短期(急性) : 区分 2

GHS ラベル要素

絵表示



注意喚起語

危険

危険有害性情報

金属腐食のおそれ

重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷

重篤な眼の損傷

臓器の障害のおそれ(呼吸器系)

長期にわたる、または反復ばく露による臓器の障害のおそれ(歯、呼吸器系)

水生生物に毒性

注意書き

安全対策

他の容器に移し替えないこと。
粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
取扱い後は手など、ばく露箇所をよく洗うこと。
この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
環境への放出を避けること。
保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

応急処置

飲み込んだ場合：口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。直ちに医師に連絡すること。
皮膚（または髪）に付着した場合：直ちに汚染された衣類をすべて脱ぐこと。
皮膚を水【またはシャワー】で洗うこと。直ちに医師に連絡すること。汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。
吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。直ちに医師に連絡すること。
ばく露またはばく露の懸念がある場合：医師に連絡する事。
気分が悪い時は、医師の診察/手当を受けること。
物的被害を防止するためにも流出したものを吸収すること。
保管
容器を密閉しておくこと。
直射日光を避け、換気の良い涼しい場所で保管すること。
耐腐食性/耐腐食性内張りのある容器に保管すること。
廃棄
内容物/容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に依頼して廃棄すること。
他の危険有害性
データなし

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 ; 混合物

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲	化学式	化審法番号	CAS 番号
塩化水素	3-5%	HCl	1-215	7647-01-0
精製水	残	H2O	-	7732-18-5

4. 応急処置

吸入した場合

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。気分が悪い時は、医師に連絡すること。

皮膚（または髪）に付着した場合

直ちに汚染された衣類をすべて脱ぐこと。皮膚を水【またはシャワー】で洗うこと。直ちに医師

に連絡すること。汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。

眼に入った場合

水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。

その後も洗浄を続けること。直ちに医師に連絡すること。

飲み込んだ場合

口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。直ちに医師に連絡すること。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状

急性：この液体が急速に気化すると、凍傷を引き起こすことがある。本物質は眼、皮膚および気道に対して、腐食性を示す。本ガスを吸入すると、喘息様反応(RADS)を引き起こすことがある。ばく露すると、のどが腫れ、窒息することがあるを引き起こすことがある。高濃度で吸入すると、眼や上気道に腐食の影響が現われてから、肺水腫を引き起こすことがある。高濃度を吸入すると、肺炎を引き起こすことがある。

慢性：気道疾患、歯への酸損傷、胃腸障害。気道の慢性炎症および肺機能の低下を生じることがある。無機強酸ミストはヒトで発がん性を示す。

応急措置をする者の保護に必要な注意事項

救助者は、状況に応じて適切な眼、皮膚の保護具を着用する

医師に対する特別な注意事項

データなし

5. 火災時の措置

適切な消火剤

水噴霧、泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂類

使ってはならない消火剤

直接の棒状注水

火災時の特有の危険有害性

毒性の強い分解生成物が発生する可能性がある。

特有の消火方法

不燃性である。消火対策は、周囲の状況に合わせて選択すること。

消火作業は、風上から行い、周囲の状況に応じた適切な消火方法を用いる。

安全に対処できるならば着火源を除去すること。

火災周辺の設備、可燃物に散水し、火災延焼を防ぐ。

危険でなければ火災区域から容器を移動する。

移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。

消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。

関係者以外の立ち入りを禁止する。

消火作業の際には、煙を吸入しないように注意する。

消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置

適切な自給式の呼吸器用保護具、眼や皮膚を保護する防護服（耐熱性）を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。

全ての着火源を断つ。周囲に注意喚起し、避難させる。可能であればガス発生源を遮断する。

危険な現場を分離して無関係者及び保護具未着用者の出入りを禁止する。

作業者は適切な保護具（「8. ばく露防止及び保護措置」の項を参照）を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。

適切な防護衣を着けていないときは破損した容器あるいは漏洩物に触れてはいけない。

風上から作業し、ミスト、蒸気、ガスなどを吸入しない。

低地から離れる。

漏洩しても火災が発生していない場合、密閉性の高い、不浸透性の保護衣を着用する。

密閉された場所に立入る前に換気する。

環境に対する注意事項

漏出した製品が河川等に排出され、環境へ影響を起ささないように注意する。

汚染された排水が適切に処理されずに環境へ排出しないように注意する。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

危険でなければ漏れを止める。

すべての発火源を速やかに取除く（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止）。

吸収剤（例：乾燥土、砂、不燃性布）で流出物を拭き取り、化学品廃棄容器に回収する。

大量の流出には盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いて化学品廃棄容器に回収する。

回収した漏洩物は、後で産業廃棄物として適正に処分廃棄する。

回収跡は多量の水で洗い流す。

二次災害の防止策

付着物、回収物などは、関係法規に基づき速やかに処分する。

すべての発火源を速やかに取除く（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止）。

排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	技術的対策	『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
	局所排気・全体換気	『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行う。
	安全取扱い注意事項	他の容器に移し替えないこと。 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。 取扱い後は手など、ばく露箇所をよく洗うこと。 この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。 環境への放出を避けること。 保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。

	接触回避	『10. 安定性及び反応性』を参照。
	衛生対策	取扱い後は手など、ばく露箇所をよく洗うこと。
保管	安全な保管条件	容器を密閉しておくこと。 直射日光を避け、換気の良い涼しい場所で保管すること。 耐腐食性/耐腐食性内張りのある容器に保管すること。
	安全な容器包装材料	道路法、毒劇法、国連輸送法規で規定されている容器を使用する。

8. ばく露防止及び保護措置

化学名	塩化水素	
管理濃度	-	
濃度基準値		
八時間濃度基準値	-	
短時間濃度基準値	-	
許容濃度		
日本産衛学会	最大許容濃度：2 ppm、 3.0 mg/m ³	
ACGIH	TLV-C：2 ppm	
設備対策	設備/装置全体を密閉化するか、又は局所排気装置／プッシュプル型換気装置を設置する。 取扱い場所の近くに、洗眼及び身体洗浄の為の設備を設け、その位置を明確に表示する。	
保護具	呼吸用保護具	適切な呼吸器保護具を着用すること。
	手の保護具	適切な保護手袋を着用すること。
	眼、顔面の保護具	適切な眼の保護具を着用すること。
	皮膚及び身体の保護具	適切な保護衣を着用すること。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状态	
物理状態	: 液体
色	: 無色
臭い	: 僅かに刺激臭
融点/凝固点	: データなし
沸点又は初留点及び沸点範囲	: データなし
可燃性	: データなし
爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界	: データなし
引火点	: データなし
自然発火点	: データなし
分解温度	: データなし
pH	: 酸性
動粘性率	: データなし
溶解度	: 水に可溶

n-オクタル/水分配係数(log 値)	: データなし
蒸気圧	: データなし
密度及び/又は相対密度	: データなし
相対ガス密度	: データなし
粒子特性	: データなし
その他データ	: データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	法規制に従った保管及び取扱においては安定と考えられる。
化学的安定性	法規制に従った保管及び取扱においては安定と考えられる。
危険有害反応可能性	水溶液は、強酸である。塩基と激しく反応し、腐食性を示す。酸化剤と激しく反応する。有毒なガス(塩素)を生じる。水の存在下で、多くの金属を侵す。引火性/爆発性ガス(水素)を生じる。
避けるべき条件	高温、直射日光、加熱、混触危険物質との接触
混触危険物質	塩基、酸化剤、金属
危険有害な分解生成物	塩素、水素

11. 有害性情報

急性毒性(経口)

【塩化水素】ラット LD50 = 238～277 mg/kg、700 mg/kg (SIDS (2009)) より、危険性の高い方の区分3とした。

急性毒性(経皮)

【塩化水素】ウサギ LD50 > 5010 mg/kg (SIDS (2009)) に基き区分外とした。

急性毒性(吸入：ガス)

【塩化水素】ラット LC50 = 4.2, 4.7, 283 mg/L/60min (4時間換算値：順に、1411, 1579, 95083 ppm) (SIDS (2009)) より、危険性の高い方の区分3とした。

急性毒性(吸入：蒸気)

【塩化水素】データなし。

急性毒性(吸入：粉塵、ミスト)

【塩化水素】エアゾールのデータ、ラット LC50 = 1.68 mg/L/1h (SIDS (2009))。この値の4時間値 0.42 mg/L に基づき区分2とした。

皮膚腐食性/刺激性

【塩化水素】ウサギを用いた皮膚刺激性試験で、1～4 時間曝露により濃度次第で腐食性が認められていること (SIDS (2009))、マウスあるいはラットに5～30 分曝露により刺激性および皮膚の変色を伴う潰瘍が起きていること (SIDS (2009))、またヒトでも軽度～重度の刺激性、潰瘍や薬傷を起こした報告もある (SIDS (2009))。以上より、本物質は腐食性を有すると考えられるので区分1とした。

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性

【塩化水素】皮膚腐食性で区分1に分類されている。眼の損傷・刺激性に関してはすべて本物質の水溶液である

塩酸曝露による。ウサギを含め複数の動物試験の結果、眼に対する重度の刺激または損傷性、腐食性を示すとの記述があり (SIDS (2002))、また、ヒトにおいても永続的な損傷や失明のおそれが記載されている (SIDS (2002)) ので区分 1 とした。なお、EU 分類では C、R34 に分類されている。

呼吸器感作性

【塩化水素】【分類根拠】

(1) ～ (3) より、本物質にばく露されたへのばく露による喘息症状の報告があるが、本物質の刺激性による可能性が考えられることから、分類できない。なお、情報源の情報を精査し、分類結果を変更した (2024 年度)。

【参考データ等】

(1) 塩化水素は刺激性があり、これが気管支収縮を誘発する原因となり得る (ACGIH (2003)、産衛学会許容濃度提案理由書 (2014))。

(2) 塩化水素が含まれるプール清掃製品に 1 時間ばく露された事例を報告している。患者はもともと弱いぜんそくがあったが、ばく露により急速に重篤な気管支痙攣をおこし、1 年後も通常の刺激性物質の吸入によって引き起こされたのと同様の明らかな喘息症状が続いた (同上)。

(3) 10 名の喘息患者 (男女各 5 名、18 ～ 25 歳) に、15 分運動－15 分休憩－15 分運動の課題を課しながら、清浄空気 (0 ppm)、0.8 ppm および 1.8 ppm の塩化水素を計 45 分間吸入ばく露し、呼吸器系その他への影響を調べた結果、いずれも肺への影響は見られなかった (同上)。

皮膚感作性

【塩化水素】モルモットの Maximization Test およびマウスの Ear Swelling Test での陰性結果 (SIDS (2009)) に加え、50 人のヒトに感作誘導後 10～14 日に適用した試験において誰も陽性反応を示さなかった報告 (SIDS (2009)) があり、区分外とした。

生殖細胞変異原性

【塩化水素】In vivo 試験のデータがないため分類できない。なお、Ames 試験では陰性、in vitro 染色体異常試験では低 pH に起因する偽陽性が得られている (SIDS (2009))。

発がん性

【塩化水素】IARC による Group 3 (1992 年)、ACGIH による A4 (2003 年) の分類に基づき区分外とした。なお、ラットあるいはマウスの発がん性試験では発がん性を示唆する証拠はなく (SIDS (2009))、ヒトの疫学調査でも多くはがん発生と塩化水素曝露との関係に否定的である (IARC 54 (1992)、PATTY (5th, 2001))。

生殖毒性

【塩化水素】データはすべてラットまたはマウスの妊娠期に投与した試験であり、児動物の発生に及ぼす悪影響は認められていない。しかし、親動物の交配あるいは妊娠前投与による性機能または生殖能に対する影響については不明であるので、データ不足のため「分類できない」とした。

特定標的臓器毒性 (単回ばく露)

【塩化水素】ヒトで吸入曝露により呼吸困難、喉頭炎、気管支炎、気管支収縮、肺炎などの症状を呈し、上気道の浮腫、炎症、壊死、肺水腫が報告されている。(DFGOT vol.6 (1994)、PATTY (5th, 2001)、(IARC 54 (1992)、ACGIH (2003))。また、動物試験では粘膜壊死を伴う気管支炎、肺の浮腫、出血、血栓など、肺や気管支に形態的傷害を伴う毒性影響がガイダンス値の区分 1 の範囲で認められている (ACGIH (2003)、SIDS (2009))。以上のヒトおよび動物の情報に基づき区分 1 (呼吸器系) とした。

特定標的臓器毒性(反復ばく露)

【塩化水素】ヒトで反復曝露を受け侵食による歯の損傷を訴える報告が複数あり (SIDS (2002)、EHC 21 (1982)、DFGOT vol.6 (1994)、PATTY (5th, 2001))、さらに慢性気管支炎の発生頻度増加も報告されている (DFGOT vol.6 (1994))。これらの情報に基づき区分1 (歯、呼吸器系) とした。

誤えん有害性

【塩化水素】 GHS の定義におけるガスである。

12. 環境影響情報

生態毒性

水生環境有害性 短期(急性)

【塩化水素】 魚類 (コイ) の 96 時間 LC50 (OECD TG203) =4.92 mg/L (pH: 4.3)、甲殻類 (オオミジンコ) の 48 時間 EC50 (OECD TG202) =0.492 mg/L (pH: 5.3)、複数の金属塩を含有する OECD 媒体への溶解液による藻類 (ラフィドセリス属) の 72 時間 ErC50 (OECD TG201) =0.492 mg/L (pH: 5.3) (以上、SIAR (2005)) であることから、甲殻類、藻類より区分1 とした。

新たな情報を入手し、採用したが、旧分類から分類結果は変更しない。

水生環境有害性 長期(慢性)

【塩化水素】 慢性毒性データがある栄養段階 (藻類) に対して、藻類 (ラフィドセリス属) の 72 時間 NOErC (OECD TG201) =0.097 mg/L (pH: 5.3) (SIAR (2005)) であるが、酸性による急性影響が疑われない pH 値であり、また、複数の金属塩を含有する OECD 培地と脱塩素した水道水が使用されているため、通常の生態系を代表する値とはならないだろうと SIAR (2005) に記載されており、分類できないとする。

慢性毒性データがない栄養段階 (魚類、甲殻類) に対して、急性データは魚類 (コイ) の 96 時間 LC50=4.92 mg/L、甲殻類 (オオミジンコ) の 48 時間 EC50=0.492 mg/L であるが、これらは蒸留水を溶解液とした試験の結果であり、環境水中では緩衝作用が生じるとみられるため、区分に該当しないとなる。

以上の結果より、区分に該当しないとした。

残留性・分解性

【塩化水素】 データなし

生体蓄積性

【塩化水素】 データなし

土壤中の移動性

【塩化水素】 データなし

オゾン層への有害性

【塩化水素】 モントリオール議定書に指定された物質に該当しない。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物

廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。

都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。

廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上処理

を委託する。

汚染容器及び包装 容器は洗浄してリサイクルするか、関連法規制ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。

空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

ADR/RID(陸上)

国連番号	1789
品名(国連輸送名)	HYDROCHLORIC ACID
国連分類(輸送における危険有害性クラス)	
	8
副次危険	-
容器等級	III
海洋汚染物質	-

IMDG(海上)

国連番号	1789
品名(国連輸送名)	HYDROCHLORIC ACID
国連分類(輸送における危険有害性クラス)	
	8
副次危険	-
容器等級	III
海洋汚染物質	-

MARPOL73/78 附属書 II 及び IBC コードによるばら積み輸送される液体物質
該当

IATA(航空)

国連番号	1789
品名(国連輸送名)	HYDROCHLORIC ACID
国連分類(輸送における危険有害性クラス)	
	8
副次危険	-
容器等級	III
環境有害性	-

国内規制

海上規制情報	船舶安全法の規定に従う。
航空規制情報	航空法の規定に従う。
陸上規制情報	消防法、毒物及び劇物取締法の規定に従う。

その他(一般的)注意 化学品を扱う場合の一般的な注意として、輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れ

	の防止を確実に行う。
	重量物を上積みしない。
特別安全対策	必要に応じ移送時にイエローカードを運搬人に保持させる。
緊急時応急措置指針番号	157

15. 適用法令

労働安全衛生法

名称等を表示すべき危険物及び有害物(法第 57 条)

「塩化水素-対象となる範囲(重量%) ≥ 0.2 」

名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第 57 条の 2)

「塩化水素-対象となる範囲(重量%) ≥ 0.1 」

皮膚等障害化学物質等及び特別規則に基づく不浸透性の保護具等の使用義務物質(規則第 594 条の 2)

「塩化水素-裾切値(重量%) : 1」(特化則等)

特定化学物質等(特定化学物質障害予防規則)

「塩化水素-対象となる範囲(重量%) > 1 」(第三類物質)

腐食性液体(労働安全衛生規則第 326 条)

化学物質排出把握管理促進法(PRTR 法)

非該当

毒物及び劇物取締法

非該当

化審法

非該当

消防法

非該当

大気汚染防止法

ばい煙(有害物質)(政令第 1 条第 2 号)「塩素及び塩化水素」

特定物質(政令第 10 条第 9 号)「塩化水素」

水質汚濁防止法

指定物質(政令第 3 条の 3 第 5 号)「塩化水素」

海洋汚染防止法

有害液体物質(Z 類物質)(施行令別表第 1)「塩酸」

船舶安全法

腐食性物質(危規則第 2, 3 条危険物告示別表第 1)「塩酸」

航空法

腐食性物質(施行規則第 194 条危険物告示別表第 1)「塩酸」

労働基準法

疾病化学物質(法第 75 条第 2 項、施行規則第 35 条別表第 1 の 2 第 4 号 1)「塩酸」

廃棄物の処理及び清掃に関する法律

16. その他の情報

参考文献

化学物質管理促進法 PRTR・MSDS 対象物質全データ	化学工業日報社
労働安全衛生法 MSDS 対象物質全データ	化学工業日報社
化学物質の危険・有害便覧	中央労働災害防止協会編
化学大辞典	共同出版
安衛法化学物質	化学工業日報社
産業中毒便覧(増補版)	医歯薬出版
化学物質安全性データブック	オーム社
公害と毒・危険物(総論編、無機編、有機編)	三共出版
化学物質の危険・有害性便覧	労働省安全衛生部監修
GHS 分類結果データベース	nite(独立行政法人 製品評価技術基盤機構)
GHS モデル MSDS 情報	中央労働災害防止協会 安全衛生情報センター

責任の限定について

本記載内容は、現時点で入手できる資料、情報データに基づいて作成しており、新しい知見によって改訂される事があります。また、注意事項は通常の取扱いを対象としたものであって、特殊な取扱いの場合には十分な安全対策を実施の上でご利用ください。